



ICT活用の好事例2025【教科用】

徳島県GIGAスクール構想推進本部高等学校部会



教科・科目・単元	国語・古典探究・『無名草子』
活用場面	古文の口語訳
活用ツール	Microsoft Forms
活用方法	教師が出題した問題に、生徒が解答する。
活用の目的	<ul style="list-style-type: none"> 幅が起こり得る口語訳の正誤を確認する。 基礎的な文法事項を押さえる。
期待される効果	<ul style="list-style-type: none"> 全員の口語訳を一覧にでき、一気に確認できる。 生徒が匿名で個々に解答できるため参加しやすい。

活用者・報告者の声

- 古文の口語訳は苦手な生徒にとって、「どうしてその訳になるのか」「正答例にある訳でないとだめなのか」といった引っかかりを生みやすい。そういうつまずきを防ぐことができる上で効果的と感じた。
- 紙媒体にも解答させ、教師が助言を加えて返却。誤答をしてしまった生徒へのケアとして、きめ細やかな指導につなげている。

《本時の展開》

本文の音読

口語訳の確認

内容読解

まとめ

《活用の様子・ワークシート》

○○HR 古典探究『無名草子』「清少納言」

1. 「あまりになりぬ人の、そのままにて待るためし、」を口語訳しない。

回答を入力してください

ID	名前	回答
1	anonymous	あまりにも度が過ぎてしまった人が、そのままいらっしゃる例は、
2	anonymous	あまりにもやりすぎてしまった人が、そのままございます前例は、
3	anonymous	余ってしまった人が、そのままお仕えすることは、
4	anonymous	あまりにも困ったので、そのままにしておいた